別紙3　令和6年度　学校関係者評価書（最終評価）　国分寺市立第六小学校　校長名　氏原　玲子　令和6年2月　作成

教育目標：　◎仲良く助け合う子　○よく考える子　○体をきたえる子

めざす学校像：・子供たちが主体的に学び、豊かにかかわりあう学校　・教職員が協働し、組織の総合力で教育活動を推進する学校　・保護者、地域から信頼される学校

めざす児童像：・自分も人も大切にし、互いに理解し協力して、豊かに生きる子　・すすんで学び、深く考え、自分の良さを伸ばす子　・健康で安全な生活をおくり、粘り強くやり抜く子

めざす教師像：・自ら学ぶ教師　・教育への情熱と子どもへの愛情あふれる教師　・子ども・保護者・地域に信頼される教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標（中間）	努力指標（最終）	成果指標（中間）	成果指標（最終）	今後の課題	学校関係者評価記入欄
確かな学力の向上	個別最適な学びと協働的な学びを通して全員が「分かる」「できる」喜びや自信を実感できる教育を目指す。	「主体的・対話的で深い学び」の具現化を行う。	計画的な授業の実施と日常的な授業改善を通し、見通しと振り返りが連動した問題解決型、対話や交流等の協働型の授業を展開する。	4	4	3	3	・問題解決型、対話や交流等の協働型の授業を通して、自分の考えに自信をもち、主体的に学習の取り組む児童を育成する必要がある。 ・改善策にあるような児童の発言や考えを価値づけるような教師の手立てを具体化し、どの教員も同じように指導できるようにしていく。	・自分の考えを述べることも重要だが、相手の話を否定せずに、きちんと聞くことができているのかという視点からの進め方も考えていくことが大切である。 ・それぞれの子供たちの良いところを大切にし、学びの喜びを感じさせてほしい。 ・間違える、失敗することは悪いことではないという安心した授業や発言の場を作ってあげてほしい。 ・教員の皆様の授業力向上と心の余裕が必要だと思います。
		基礎・基本の学力定着と意欲向上につながる学習環境の整備を推進する。	各教科・領域で言語環境（話す・聞く・読む・書く活動）が充実した授業展開の推進、「六小スタンダード」の定着を行うことで、児童の学習理解と意欲の向上につなげる。	4	4	3	4	・基礎・基本の学力定着に個人差、学年差などの課題がある。授業改善を進めると共に、低学年から六年間を見通した系統的な学習内容を指導していく。 ・学期の始めに各学年で学ぶ内容を周知する。	・基礎が定着しない原因を分析し、次の学年の学習に支障をきたさないようにすることは重要である。 ・成果指標が上がったのが良い。子供たちには、基礎、基本を学ぶ段階で学ぶ楽しさを体感させてあげたい。 ・勉強が苦手な子供たちは、自分がどこが分からないのか、どこが苦手なのかを分からないことが多いと思う。そこを改善できれば子供たちも学ぶことの楽しさに気付いて勉強することが楽しくなると思う。
豊かな人間性の育成	人権尊重教育を推進し、自己の生き方についての考えを深めるとともに、相互理解や人との関わりを大切にする心を育てる。	道徳の授業および指導の充実、特別活動の充実を通して、豊かな心の育成と人間性を育てる。	教科等と関連させた道徳の授業を通して、児童が自己の生き方を深める学習を展開する。特別活動の充実を通して、相互理解や思いやりの心を育てる。	3	4	2	3	・成果指標の数値には学担以外が授業・指導に関わりにくいという背景がある。共に指導を行ったり、助言をしたりする方策をとっていく。 ・道徳の学習について、地区公開講座の際には保護者、地域に発信することもあり、校内で共通した課題意識で取り組んでいるが、日頃からこの意識をもって教科指導にあたることができるように改善していく必要がある。	・アンガーマネジメントを高学年の段階で学ぶのはとても良い取組である。 ・発達に合わせて、良い人間関係を築いていくための知識が得られる授業等をしていくことが望ましい。 ・努力指標、成果共に向上したことはとても評価出来ると思う。公開講座など、より地域の方に参加してもらえると良いと思う。 ・2年生のいのちの授業を参観した。自分たちがどのようにこの世に誕生してきたのか考えるとても良い内容だった。
		いじめ・不登校対策の充実と徹底を行い、相手の人権を尊重し、豊かな心をもつ児童を育成する。	ふれあい月間、いじめ対策委員会、学校復帰支援会議等を行い、校内で情報を共有することで、全ての事案を組織的に対応する。	4	4	2	3	・児童アンケートから少数ではあるが、相手を思いやる気持ちや行動をとることができなかった場面があると自覚している児童がいることは課題である。改善策にあがったような取り組みを生活指導部を中心に行っていく。	・相手を思いやる行動が取れなかった理由を児童自身が考えるなど、分析できる時間もあるとより良いと思われる。 ・成果指標が上がっているのが評価できる。不登校にさせない努力を引き続きお願いしたい。 ・相手を思いやる行動をとることができなかったと自分で分かってる児童は改善できると思う。逆に、それに気付いていない児童が問題だと感じる。
健やかな体の育成	体力の向上や健康教育等を通して、心身の健康を大切にする態度を育てる。	体育の授業改善および運動に親しむ環境づくりを推進する。	体育科での運動量の確保と、児童が楽しみながら進んで取り組む授業を計画的に行う。また、各運動旬間の取組を充実させ、運動の日常化を図る。	2	3	2	2	・中間評価時に改善策として体育館の休み時間の使用について案があったが、長縄週間の練習時のみの活用となってしまい具体的に改善できなかった。最終評価時の改善策のように来年度に向けて計画を具体化させていく。 ・この項目は評価が低いので、来年度年間を通した継続的な取組を進める。	・努力指標の向上を評価する。体育館休み時間の使用については具体化させてほしい。 ・最近、怪我をする児童が多いと思う。やはり運動量の低下によるものかと感じる。寒くても、楽しく体を動かせることは沢山あると思う。健康は身体づくりの為にも改善してほしいです。
			保健・給食および安全に関する指導を通して、命や体を大切にする態度と、自己管理力を高める。	3	4	3	3	・この項目は今年度から評価計画に入れたものだが、主に給食（食育）に関する評価に課題があることが分かった。児童の健やかな体の育成のためにも、児童自身がその大切さを知り、自己管理力を向上させる六年間を通した系統的な指導を行っていく。	・味（味覚）に関すること、栄養素に関することなど、自分の身体にどう影響があるのかを知り、自身の身体と向き合えるような要素を入れることが重要だと考える。 ・努力指標の向上を評価する。六小は畑の多い学区でもあり、こくベジを通した食育を行うことで食の大切さを分かりやすく学べるのではないか。 ・食べ物に対して好き嫌いのある子が多いと思う。美味しい給食を食べられることは当たり前じゃない！という指導をもっとやってほしい。
開かれた学校づくり	地域に学び貢献する子の育成を目指し、学校・家庭・地域が一体となって学びと育ちを共有する学校をつくる。	地域の「人・自然・もの」から豊かに学び、国分寺学で目指す力を育成する教育活動の充実を図る。	総合的な学習の時間や生活科を元にして、各教科と関連させながら、地域の人や自然、ものと関わりながら学ぶ学習を計画的に行う。	3	4	3	4	・今年度の学習内容を各学年と担当者で振り返り、指導計画を改善した上で来年度に引き継ぐ。 ・国分寺学を通して児童に身に付けさせたい資質、能力を年度当初に確認して指導を行うことで、内容の充実した指導につなげる。 ・生活科の学習の中での国分寺学の位置付けを明確にする。	・国分寺学の位置づけや方向性を教員がしっかり共有していくこと、振り返りをする取組を継続していくことが重要だと考える。 ・国分寺学は地域への愛着をもつという意味でも良い学びだと思う。内容の振り返りを行い、より良い形に発展させてほしい。 ・国分寺には畑が多いのので、畑仕事が身近で経験できるのはとても幸せだと思う。自然の中での子供たちの笑顔は本当にすてきです。
		外部人材や保護者ボランティア等の活用を推進し、地域と共に子供を育てる開かれた学校づくりを行う。	ゲストティーチャーやボランティアと連携した授業や行事の充実を図ると共に、様々な方法で情報を発信する。	3	4	3	4	地域との連携の充実が校内外の関係者に伝わり評価が高くなった。この連携を継続・発展につなげるために今年度の各学年の活用について記録に残していく。 ・コミュニティ・スクールへの円滑な接続を進める。	・教員では教えにくい分野などで、特に外部人材などを生かしていくことが重要であり、記録方法などもブラッシュアップしていくことが大切である。 ・地域の様々な人材に協力いただき、子供たちを育てる環境づくりを少しずつ確立する必要があると思う。 ・昨年末、ボランティアで五中へゆでまんじゅう作り、十小で書初めの指導へ行った。子供たちや先生方との時間はとても有意義だった。